

令和6年度 第2回

安城市博物館協議会

令和6年10月31日(木)

午後1時30分～

歴史博物館・講座室

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 令和6年度開催済事業報告

(2) 令和6年度下半期事業計画案

(3) 令和7年度事業計画案

3 その他

(1) 今後の日程

- ・合同研修 11月6日(水) 豊田市(旧鈴木家住宅・豊田市博物館)
- ・第3回 令和7年1月31日(金) 午後1時30分～予定

(2) 観覧

安城市博物館協議会委員

(任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日)

	氏名	選任区分	備考
会長	高山 忠士	学識経験者	
副会長	加藤 りせ子	社会教育	
委員	松永 博司	学校教育	
委員	荒井 信貴	学識経験者	
委員	市川 とし子	学識経験者	
委員	平岩 政志	公募委員	

安城市民憲章

わたくしたちは安城市民です。
わたくしたちの愛する安城を、いっそう魅力にみちた
生きがいのあるまちにするため、市民生活の心がまえとして、
この憲章を定めます。

わたくしたちは、

- *たがいに助け合い、住みよいまちをつくりましょう。
- *きまりを守り、良い習慣を育てましょう。
- *自然を愛し、きれいな水とみどりのまちをつくりましょう。
- *教養を高め、若い力を育てましょう。
- *健康で、明るく楽しい家庭をつくりましょう。

—昭和47年11月1日制定—

●安城市民憲章推進協議会●

(1) 令和6年度開催済事業報告

ア 利用状況

(ア) 月別入館者数 ※9月30日までの入館者数

月	展示観覧者						行事参加者	文献資料室 利用者	その他	延べ入館者 合計
	有料		無料		計					
	大人	計	大人	計	大人計	合計				
4	193	193	911	1,138	1,104	1,331	354	4	569	2,258
			227		227					
5	291	291	1,581	2,807	1,872	3,098	1,274	6	528	4,906
			1,226		1,226					
6	184	184	1,458	3,518	1,642	3,702	621	5	365	4,693
			2,060		2,060					
7	2,522	2,522	1,601	2,685	4,123	5,207	3,900	29	322	9,458
			1,084		1,084					
8	4,331	4,331	3,221	4,551	7,552	8,882	8,751	37	238	17,908
			1,330		1,330					
9	1,797	1,797	1,382	2,160	3,179	3,957	2,764	4	367	7,092
			778		778					
計	9,318	9,318	10,154	16,859	19,472	26,177	17,664	85	2,389	46,315
			6,705		6,705					

(イ) 利用形態別入館者数 ※9月30日までの入館者数

月	企画展 観覧者	常設展 観覧者	講演会	歴博講座	体験講座	連続講座	入門講座	自主事業	歴博イベント	歴博演芸場	企画展 関連イベント	文献資料室	その他	延べ利用者 合計
4	999	332	0	0	0	27	0	0	89	0	238	4	569	2,258
5	2,134	964	37	0	333	29	0	0	27	0	848	6	528	4,906
6	2,525	1,177	0	16	0	28	0	0	27	0	550	5	365	4,693
7	3,108	2,099	58	0	48	0	0	0	0	0	3794	29	322	9,458
8	5,514	3,368	0	18	30	0	0	181	0	42	8480	37	238	17,908
9	2,134	1,823	56	0	0	0	0	30	39	0	2639	4	367	7,092
計	16,414	9,763	151	34	411	84	0	211	182	42	16,549	85	2,389	46,315

その他内訳

部屋利用等	666人	職場体験	(延べ) 88人
安祥文化のさとまつり	0人	多目的利用	1,617人
博物館実習	(延べ) 18人		

イ 展示活動

(ア) 常設展展示替え

月 日	変更箇所	内 容
5月18日	第6章 村の文化 文人丈山の世界	石川丈山資料の展示
8月8日	第4章 東からの風 (安城の中世) 三河真宗の美術	博物館実習生による展示 実習
10月11日	第9章 町から都市へ ゆかりの人物	新美南吉資料の展示

(イ) 特別展・企画展 ※10月20日までの観覧者数

	区 分	名 称	期 間	目標値	実績値
①	企画展	安城の今昔5 はたらく道具 たち 一職人の仕事道具一	4月13日 ～6月30日	7,000人	5,658人
②	特別展	ごろごろまるまるネコづくし	7月13日 ～9月8日	9,000人	10,606人
③	特別展	国絵図の世界一描かれた江戸 時代の三河一	9月28日 ～11月10日	3,800人	1,486人
④	特別展	地震と災難一宝永地震から三 河地震まで一	11月30日 ～1月19日	3,800人	未
⑤	企画展	季節を祝う	2月8日 ～3月23日	3,000人	未
合 計				26,600人	17,750人
参 考 (5年度)					35,264人

① 企画展「安城の今昔5 はたらく道具たち ー職人の仕事道具ー」

a 会 期 令和6年4月13日(土)～6月30日(日) 実開館日70日

b 観覧者数 5,658人【目標7,000人】1日平均81人

c 期間中の催し物

主なものは「ウ 教育普及活動」(7ページ～)に記載

d 音声ガイドの利用状況 91人 (利用率2%)

e パンフレット 1,600冊発行

f 展示について

(a) 展示点数225点

(b) 当館所蔵の民具を紹介する「安城の今昔」シリーズの第5回目として、「職人の道具」をテーマに展示を行った。展示は3章構成とし、第1章「職人の仕事と道具」では大工、杣・屋根屋・左官、建具屋、宮大工および生業に関わる職人(鍛冶屋、箆職人)を紹介した。第2章「生活道具と職人」では桶職人・靴職人・和菓子屋、さらに第3章では「安城市内の地場産業と職人」として和泉そうめん、三河花火の職人を取り上げた。

(c) 展示構成の検討、資料調査および選定、印刷物の作成のスケジュールが遅れ、展示内容について十分に検討する時間を確保できないまま展示を迎えることになってしまった。

(d) 昔の暮らしや道具の紹介という切り口ではなく「職人の道具」としたことで、観覧者の関心を引くことができた。また安城で仕事をしている職人について、その一端を紹介することができ、改めて地域について知ってもらえる機会を提供することができたのは大きな意義があった。

g 観覧者について

(a) 最終観覧者数は5,658人であり、目標達成率は80.8%にとどまった。また観覧者層は見学学習の影響を除くと市内在住・60代・女性が多く、普段の観覧者層とは異なる層であった。

(b) 来館のきっかけとして「ポスターやチラシの印象」が多く挙げられた。親しみやすいデザインにより、女性層をとらえることができた。なお「印刷物の印象と展示内容が違った」のような声はなく、概ね好意的な反応をいただいた。

(c) 記念講演会について、本展では時期と内容を考慮し当日受付とした。各日とも特にトラブルなく終えることができた。

(d) 音声ガイドについては観覧者全体の2%(91人)が利用した。過去の「安城の今昔」展の音声ガイド利用率(1～3%程度)と比べても平均的な利用率だった。

h PRについて

(a) メディアの取材については名古屋圏のテレビ局の取材が3件あり、すべて会期中に放送された。チラシ等の広報文に記載した「安城の地場産業」の文字が目にとまり、取材のきっかけとなったようだった。

② 特別展「ごろごろまるまるネコづくし」

- a 会 期 令和6年7月13日(土)～9月8日(日) 実開館日 52日
- b 観覧者数 10,606人【目標9,000人】1日平均203人
- c 期間中の催し物
主なものは「ウ 教育普及活動」(7ページ～)に記載
- d 音声ガイドの利用状況 644人 (一般観覧者利用率6%)
- e 図録 ごろごろまるまるネコづくし(委託販売) 591冊
- f 展示について
- (a) 展示点数 124点
 - (b) 「猫の浮世絵」に特化し、近世から近代にかけての猫の浮世絵作品のみを集めた展示であった。テーマが明快で、歌川国芳、月岡芳年などの絵師の作品が一堂に会したことから観覧者の満足度が高かった。入館者の動向や来館者アンケート(回答数1163件)の感想を見ると、展示を見に来たきっかけとして「展示のテーマ」と選択した方の割合が41%と非常に高く、来館者のニーズに合っていたと考えられる。
 - (c) 展示作品数よりもかなり当館の企画展示室は狭いので、仮設壁を設置して対応したが、かなり狭い箇所や動線がわかりづらい場所ができてしまった。
- g 観覧者について
- (a) 土日は平均292人、平日は149人の観覧者であり、目標人数を達成することができた。ナイトミュージアムが台風10号接近で中止になったことで来館者想定を下回ったが、最終日前日・最終日は観覧者が非常に多く、最終日には観覧者1万人突破セレモニーを実施した。
 - (b) 観覧者アンケート結果(回答数1,163件)で観覧者の動向を見ると、安城市域の方が約25%であり、県内市外の方が66%、県外からも9%の観覧者動向であった。
- h PRについて
- (a) ポスター・チラシ等印刷物で企画を知った方が30.7%と最も多かった。中日新聞社共催のため、名古屋市域にもチラシが配布されたことや、デザインが目につきやすかったと考えられる。指定管理者がポストカードでのPR活動も実施した。
 - (b) SNS発信については指定管理者がInstagramやXにて積極的にPRを行った。また、展示室前のフォトスポットで撮影をした画像や喫茶の特別展関連メニューがSNSに多く挙げられていた。
 - (c) 今回の展示は特に、Instagramの効果が高く、7.2%の方がInstagramで企画を知ったと回答している。女性の来館者が中心であったのでInstagramからの誘客が増えたと考えられる。SNSについては展示のテーマに合わせて発信先を検討していくことも効果があると考えられる。

ウ 教育普及活動

(ア) 講演会・講座

a 展覧会記念講演会 会場：講座室 午後2時 聴講無料

開催日	演題	講師	聴講者数
5月18日	江戸時代の職人を読み解く	篠宮雄二氏 (中部大学人文学部歴史地理学科教授)	37
7月13日	浮世絵の猫ブーム	稲垣進一氏 (国際浮世絵学会常任理事)	34
7月20日	ネコはどうして描かれたか	月本寿彦氏 (福島県立美術館副主任学芸員)	24
9月29日	国絵図から読む江戸時代	上杉和央氏 (京都府立大学准教授)	56
10月12日	元禄三河国境縁絵図と元禄日本図	種田祐司氏 (名古屋城調査研究センター)	44

合計 195 人

b 歴博講座・入門講座・連続講座

(a) 歴博講座 会場：講座室 午後2時 聴講無料

開催日	演題	講師	聴講者数
6月1日	安城の職人と仕事道具	千田佑香 (本館学芸員)	16
8月17日	猫のおもちゃ絵	野上真由美 (本館学芸員)	18

合計 34 人

(b) 連続講座

「村絵図で巡る安城今むかし」会場：講座室ほか 午後1時30分 資料代1,500円

開催日	演題	講師	聴講者数
4月6日	里村1	高山忠士氏 (本館元館長)	14
4月20日	里村2		13
5月11日	尾崎村		14
5月25日	上条村		15
6月8日	桜井村1		12
6月22日	桜井村2		16

合計 84 人

(イ) 指定管理 展示関連イベント ※10月6日までの参加者数

開催日	タイトル	関連展示	実施日	参加人数
4月13日～ 6月30日	はたらく道具たちクイズラリー「じんめんにゃんの見どころクイズ」	企画展「はたらく道具たち」	70日間	718

4月13日～ 6月30日	はたらく道具たちクイズラリー「職人の技に挑戦！」	同上	同上	612
4月13日～ 6月30日	はたらく道具たちフォトスポット	同上	70日間	219
4月20日	ミニ鯉のぼり染め体験	同上	1日間	19
5月19日	有松鳴海絞り職人による手ぬぐい染め体験	同上	1日間	48
6月8日	豆たたみづくり体験	同上	1日間	20
7月13日～ 9月8日	猫のステンシルで小物づくり体験	特別展「ごろごろまるまるネコづくし」	52日間	976
7月13日～ 9月8日	猫のうちわづくり体験	同上	同上	413
7月13日～ 9月8日	まるごと猫づくしクイズラリー	同上	同上	1,424
7月13日～ 9月8日	ごろごろまるまるネコづくしフォトスポット	同上	同上	3,849
7月13日～ 9月8日	ネコづくしお気に入りの猫総選挙	同上	同上	6,357
7月13日～ 9月8日	猫の撮影コーナー	同上	同上	1,843
8月30日	ナイトミュージアム「ごろごろまるまるネコづくし」夜間展示解説	同上	1日間	中止
9月28日～ 11月10日	クイズで巡る古地図めぐり	特別展「国絵図の世界」	40日間	19
9月28日～ 11月10日	国絵図の世界フォトスポット	同上	同上	65
9月28日～ 11月10日	国絵図パズルに挑戦！	同上	同上	205

合計 16,787 人

(ウ) 指定管理 体験講座

開催日	演題	講師	参加人数
5月3日～ 5月5日	鎧の試着会	指定管理者、博物館ボランティア	333

7月26日～ 7月28日	夏休み自由研究相談会	文化振興課職員	48
8月4日	オリジナル風鈴づくり	指定管理者	30

合計 411 人

(エ) 指定管理 自主事業

開催日	演 題	講 師	参加人数
8月7日	歴史博物館で和小物づくり体験 「重ね刷りでうちわを作ろう」 「手作り灯籠を作ろう」	指定管理者	5
8月12日	猫の回り灯籠づくり	指定管理者	22
8月10日 8月24日 9月7日 9月14日 9月21日 9月28日	本格的な紙甲冑を作ろう！	指定管理者	46
8月13日	歴史博物館で和小物づくり体験 「和柄のしおりを作ろう」	指定管理者	9
8月18日	歴史を楽しく学べるカードゲーム「Hi!story (ハイスト)」体験会	監修：株式会社Highsto 協力：伊與田塾	122
8月21日	歴史博物館で和小物づくり体験 「和柄のしおりを作ろう」	指定管理者	7
10月6日	歴史を楽しく学べるカードゲームHi!story 大会&体験会	監修：株式会社Highsto	60

合計 271 人

(オ) 指定管理 歴博演芸場 会場：石舞台・講座室 鑑賞無料

開催日	演 題	出演者	参加人数
8月3日	落語会-ごろごろまるまる猫斬-	お好味家喜楽氏 (前座：永頃亭夢雀氏)	42
8月31日	ナイトミュージアム「和太鼓演奏」	三州輪っ鼓、安祥太鼓	中止
9月1日	ナイトミュージアム「べんてんやちんどんショー」	名古屋のちんどん べんてんや	中止
10月5日	安祥文化のさとまつり 殺陣ショー	協力：座☆風流堂主宰 楠見彰太郎氏 暮らしの	123

		学校安城アンフォーレ 校・岡崎校、座☆風流堂 岡崎演劇塾、知立カルチ ャーセンター	
10月6日	安祥文化のさとまつり 和太鼓競演	安城太鼓会ほだら ほか	70

合計 235 人

(カ) 指定管理 歴博イベント

開催日	タイトル	参加人数
4月2日～4月12日	歴史博物館クイズラリー	0
4月14日	懐かしの“車”写生大会	89
5月19日～6月30日	西尾町内会春祭り くじ引きガチャ	29
6月8日～6月30日	古井ふれあいひろば くじ引きガチャ	25
8月30日	L'eclat チアダンス	中止
8月31日～9月1日	ナイトミュージアム「博物館ナイトツアー」	中止
9月1日	ナイトミュージアム「土器ドキ晩ゴハン」	延期
9月8日に延期	「土器ドキ昼ゴハン」	39
8月30日～8月31日	ナイトミュージアム「マイブククエスト」	中止

合計 182 人

(キ) 見学学習

a 市内小学校（企画・特別展、常設展、埋文セ）見学

月	日	曜	学 校 名	学年	人数	月	日	曜	学 校 名	学年	人数
6	4	木	二 本 小	6	117	7	5	金	志 貴 小	6	41
6	12	水	桜 井 小	6	163	7	10	水	丈 山 小	6	109
6	25	火	東 部 小	6	95	7	12	金	祥 南 小	6	43
6	26	水	桜 林 小	6	98	9	6	金	桜 町 小	6	89
6	28	水	錦 町 小	6	100	9	10	火	作 野 小	6	96
7	2	火	西 部 小	6	95	9	13	金	今 池 小	6	58
7	3	水	里 町 小	6	89	9	20	金	南 部 小	6	97
小学校児童数 計										1,290 人	
参考（5年度）										1,780 人	

b 市内中学校（企画・特別展、常設展、埋文セ）見学

月 日	曜	学 校 名	学年	人 数	月 日	曜	学 校 名	学年	人 数
5	9	木 安 祥 中	2	139	6	5	水 安 北 中	2	278
5	29	水 桜 井 中	2	243					
								中学校生徒数 計	660 人
								参考（5年度）	1,281 人

c 市外小中学校（児童・生徒）（企画・特別展、常設展、埋文セ）見学

月 日	曜	学 校 名	学年	人 数	月 日	曜	学 校 名	学年	人 数
		なし							
								市外小中学校児童生徒数 計	0 人
								参考（5年度）	0 人

(ク) 中高生の職場体験

a 市内中学校2年生

学 校 名	展示 見学	土器 洗い	土器 づくり	学芸員 講話	見学学 習補助	作業 手伝い	発掘 体験	取材 その他	備 考
篠目中	○	○	○	○	○	○		○	4日間 7名
明祥中	○	○	○	○	○	○	○	○	4日間 1名
	○	○	○	○	○	○	○	○	2日間 2名
安南中	○	○	○	○	○	○	○	○	4日間 2名
桜井中	○	○	○	○	○	○	○	○	4日間 3名
	○	○	○	○	○	○	○	○	2日間 1名
								参加生徒数 計	16 人
								参考（5年度）	9 人

b 市外中学校

学 校 名	展示 見学	土器 洗い	土器 づくり	学芸員 講話	見学学 習補助	作業 手伝い	発掘 体験	取材 その他	備 考
豊田市猿投中	○	○	○	○	○	○	○	○	2日間 1名
岡崎市翔南中	○	○	○	○	○	○	○	○	3日間 3名
								参加生徒数 計	4 人
								参考（5年度）	0 人

(ケ) 博物館実習

博物館学芸員養成講座を持つ大学からの要請により実習を行った。

- a 期間：7月31日(水)～8月2日(金)、6日(火)～8日(木) (6日間)
b 実習生 立教大学1人、三重大学1人、愛知学院大学1人 計3人
c 実習日程

開催日	午 前	午 後
7月31日	博物館業務(講義) 博物館見学	文化財保護行政(講義) 芸術文化行政(講義) 埋文センター・市民ギャラリー見学
8月1日	歴史資料の取り扱い	歴史資料の取扱い 企画展示の流れ(講義)
2日	常設展示室の展示替え	博物館と学校見学(講義) 美術資料の取扱い
6日	民俗史料の取扱い	民俗資料の取扱い 常設展示室の展示替え
7日	考古資料の取扱い	考古資料の取扱い 常設展示室の展示替え
8日	常設展示室の展示替え	展示替えプレゼンテーション 常設展示室の展示替え

(コ) 出前授業等

月 日	演題	対象	講師	参加人数
6月1日	安城松平	安城ふるさとガイドの会	本部	30
6月13日	企画展「安城の今昔5 職人の道具」	安祥公民館高齢者教室	千田	60
7月9日	安城松平・家康	南部小学校	三島	93
7月11日	安城松平	東部公民館高齢者教室	本部	92
9月14日	安城松平	印内ことぶき会	千田	48
9月27日	三河真宗と安城	二本木公民館	千田	38

合計 361 人

エ 地域連携活動

(ア) 博物館ボランティア ※10月20日までの参加者数

開催日	活動内容	ボランティアガイド延人数	参加人数
9月11日～10月14日 (延2日)	一般向け常設展示解説	14	106
5月12日～10月13日 (延11日)	常設展ガイド(第2・4日曜日)	75	169
6月25日～9月20日 (延12日)	見学学習対応	48	1,341
5月3日～10月6日 (延4日)	イベント対応	13	358
合計		150人	1,974人

(イ) 学校教育活動への支援

小学年3年生の「昔の道具」学習などに対し、体験用民具資料を貸出。(0件)

(2) 令和6年度下半期事業計画案

ア 展示活動

(ア) 特別展「地震と災難—宝永地震から三河地震まで—」

a 会 期 令和6年11月30日(土)～令和7年1月19日(日)

※休館日：毎週月曜日、年末年始 実開館日数38日

b 主 催 安城市歴史博物館

c 趣 旨

日本各地で地震は頻発しており、時代を問わず地震後の津波や火災といった二次災害も含めて多くの震災が確認されている。残された史料から地震発生からその対応、その後の人々の復興や復旧を断片的にうかがえる。

近世前期には宝永4年10月に発生した史上最大規模の地震といわれる宝永地震が起きた。近世後期には、弘化4年(1847)5月善光寺地震や、安政の大地震と総称される安政東海・安政南海地震や安政江戸地震と大きな震災が多発し、火災や河川閉塞、津波などの二次災害が被災地を襲った。いずれも藩や民の記録に残され、被害の実態や救済措置の一端を知ることができる。

近代にはいると明治24年(1896)10月濃尾地震や大正12年(1923)9月関東大震災、昭和19年(1944)12月東南海地震が発生し、行政による対応や民間による支援などが整備されていく。時代ごとの社会構造によって震災後の在り方が変化していく。

昭和20年(1945)1月13日に発生した三河地震から令和7年で80年を迎える。三河地震は愛知県三河湾沖を震源とし、マグニチュード6.8の地震で、碧海郡のなかでも本市域では大きな被害がでた。発生した時期が戦争末期だったこともあり、支援や救援活動が難航し、情報統制の中で暮らしを立て直そうとした。

災害の発生後、人々は情報収集を行い対応策を講じてきた。また、震災という大きな出来事は社会の変化の起点にもなり、都市計画や物流にも影響を与えた。

今回の特別展では、近世から現代にかけての震災を中心に、二次災害やその後の救援活動、被災地の復興の過程を踏まえつつ、震災が社会に及ぼした影響を検討する。

d 観 覧 料 500円 中学生以下無料

e 展示構成

- ・第1章 (1) 宝永地震 (2) 文政京都地震 (3) 善光寺地震
- ・第2章 (1) 伊賀上野地震 (2) 安政東海地震 (3) 安政南海地震
(4) 安政江戸地震
- ・第3章 (1) 濃尾地震 (2) 関東大震災 (3) 昭和東南海地震・三河地震

f 印刷物 ポスター、チラシ、観覧券、図録(A4判、約80ページ)

g 関連行事 *指定管理者事業を除く

(a) 特別展記念講演会

- ・12月14日(土)「安政東南海地震に学ぶ—地震・津波被害の実態理解を通じて—」

講師：谷口 央氏(東京都立大学教授)

- ・令和7年1月18日(土)

「移住者たちの関東大震災—被災地・横浜と郷里との関係を中心に—」

講師：吉田律人氏(横浜都市発展記念館主任調査研究員)

(b) 歴博講座

- ・12月8日(日) 「史料からみる三河地震」
講師：本部はる香(本館学芸員)

(c) 展示解説

- ・12月24日(火)、令和7年1月13日(月・祝) 10時～

(イ) 企画展「季節を祝う」

- a 会 期 令和7年2月8日(土)～3月23日(日) 実日数39日
※休館日：毎週月曜日、ただし2月24日は開館

- b 主 催 安城市歴史博物館

c 趣 旨

古代中国の暦法では太陽の運行に従って冬至・春分・夏至・秋分を設け、その中間を立春・立夏・立秋・立冬と名付け、これを季節の始まりとしました。「暦の上では春ですが」と言いますが、この春とは立春を指します。このような節目は節気と呼ばれ、季節の移り変わりを祝う行事が行われてきました。

また同じく季節の節目を表す言葉に「節供(節句)」があります。これは陰陽五行説の思想に基づくもので、暦上で奇数が重なる1月1日(のちに1月7日)・3月3日・5月5日・7月7日・9月9日をそれぞれ人日・上巳・端午・七夕・重陽と呼びました。江戸時代には五節供として定められこともあり、変わり目を祝う行事としてしだいに民間にも普及・定着していきました。

本展では雛人形や五月飾り、「年中行事絵巻」等当館の収蔵品を中心に、季節を祝う行事が現代にいたるまでどのように受け入れられ、受け継がれてきたのか紹介します。

- d 観 覧 料 無料

- e 出 版 物 ポスター、チラシ、観覧券

f 関連事業 *指定管理者事業を除く

(a) 記念講演会

- ・3月16日(土) 「平安文学から読み解く年中行事～枕草子・源氏物語を中心に～」
講師：勝亦 志織氏(中京大学文学部教授)

(b) 歴博講座

- ・3月1日(土) 「節句の変遷」
講師：千田 佑香(本館学芸員)

(c) 展示解説 日時未定、2回程度を想定

イ その他

※下半期催し物案内参照

(3) 令和7年度事業計画案

令和7年度展覧会

種別	テーマ	期 間
企画展	日本デンマーク (仮)	4月～6月
特別展	終戦80年 (仮)	7月～8月
特別展	日本妖怪展※企画協力展	9月～11月
特別展	三河三白山 (仮)	11月～1月
企画展	収蔵品展 近世の村 (仮)	2月～3月